

戦後の教科書 昭和24年度刊 (3/6)

“その通り、しまよう の見える岩は、海などにつもった砂やどろなどが
かたまってきたものだから、火山には見られないわけです。今 みなさんが
気づいたようなことから、このへんの山は、地面が高まってできたものだとい
うことがわかります。しかし、その高まりかたにはいろいろあります。それ
について少しくわしくお話ししましょう。

私たちは、陸地は動かないもののように感じますが、実さいは常に動い
ています。ただそれが非常にわずかなので私たちには気がつかないのです。
たとえば中国地方の山は約30年の間に30~50cm高くなったことが知られていま
すが、こんなわずかな量も三十万年後には3000~5000mの高さになります。この
ような運動のほか、地しんによって急に海底が陸地になったり、陸地が海底
にしずんだり、大きな がけ ができたりすることもあります。

このように地球の表面はいつも動いていますが、これは地表に力のはたらい
ているからです。そのために平につもった地層も長い間には かたむいたり、
きれてくいちがったりすることがあります。このくいちがいを断層とよんでい
ます。断層の小さなものは、がけなどに よく見られますから、これからは注
意してごらん下さい。

ところが断層も大きなものになると、山を作るほどにもなります。今2列に
ならんだ断層ができ、両がわが落ちこめばそれにはさまれた部分が残って、高
くなるでしょう。こうしてできた山が断層の山です。

“先生、このへんの山はやっぱり断層でできたのですか？”

